様式１：小学校

令和７年度　さいたま市　英語教育改善プラン

目標

独自の英語教育「グローバル・スタディ」をさらに推進し、言語活動を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。

☑ 言語活動　☐ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む）　☑ 教師の英語力・指導力（専科教員含む）　☑ 校種間連携　☐ALTの参画　☐ ICTの活用（AIを除く）　☐ AIの活用　☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査項目「英語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的な回答が8割を超えている。（R6:82.7%）

②「グローバル・スタディ」独自の単元である「英語劇（５年生）」と「ディスカッション（６年生）」への理解を促進することができた。

未だ改善が必要な点

❶R6全国学力・学習状況調査の質問調査項目「英語の勉強は好きですか」の肯定的な回答が減少傾向である。(R5:68.6%⇒R6:66.9%)

❷「小学校教員の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」が目標（50%）に達していない。

２．要因分析

①学校訪問や研修会等で、言語活動の指導について、具体的な指導助言を行ったことより、授業改善が図られたと考えられる。

②主任向けの研修会でテーマとして取り上げたり、授業の指導補助に当たっているグローバル・スタディ科非常勤講師やALTに向けた研修会を実施したりしたことにより、広く理解を促進できたと考えられる。

❶英語に苦手意識をもつ児童が自信をもって取り組めるような主体的な学びが充分に展開されていないことが要因と考えられる。

❷一定の英語力を有する志望者は、小学校英語教育推進特別選考（専科教員）に流れてしまうため、一般の小学校教員の新規採用者での割合は低い。

３．目標を達成するための施策・事業

①②１２年間の学びの連続性の構築

令和５・６年度に小・中学校の「グローバル・スタディ」カリキュラムを改訂し、これまで以上に、小・中の円滑なカリキュラム接続に重点を置いている。そこで、カリキュラム改訂のポイントや言語活動を通した指導等について、小・中合同のグローバル・スタディ科主任研修会や学校訪問で、指導助言する。また、「グローバル・スタディ」の指導補助に当たっているグローバル・スタディ科非常勤講師やALTを対象とした研修を引き続き実施することで、「グローバル・スタディ」の指導に係るすべての教職員の指導力を高め、「グローバル・スタディ」のさらなる推進を図る。

❶個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実

個別の目標設定や学習方法等、単元ゴールを達成するために必要な学習を児童が選択して取り組み、互いに共有し合う学びを一層充実させる。そのために、グローバル・スタディ科の推進力となっている専科教員の研修会を授業公開で行い、実際の授業をもとにしての協議会や指導を通して、専科教員全体の授業力の向上を図り、英語が好きで、積極的にコミュニケーションを図る児童の育成を目指す。

❷教員採用試験での加点制度の実施

英語力を有する受験者の加点制度を引き続き実施し、小学校教員の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の向上を図る。さらに、「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」の活用や市教育研究会の参加を通して、小学校教員の英語力を高めていく。

様式１：中学校

令和７年度　さいたま市　英語教育改善プラン

目標

本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の更なる充実を図り、言語活動を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成。

○ CEFR A1レベル相当の英語力を有する生徒の割合（R6：89.2％⇒R7：90.0％）

☑ 言語活動　☐ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む）　☐ 教師の英語力・指導力　☐ 校種間連携　☐ALTの参画　☐ ICTの活用（AIを除く）　☐ AIの活用　☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が令和5年度と比べて、0.8%増加した。(R5:88.4%→R6:89.2%)

② ICTを用いて発表ややり取りをする活動を半分以上の授業で実施している割合が26%増加した。(R5:40%→R6:66%)

未だ改善が必要な点

❶R6全国学力・学習状況調査の質問調査項目「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」の実施が他の活動と比べて低い割合であった。(R6:78.6%)

❷４技能効果測定において、「話すこと」のスコアが、全国の平均よりも高い数値ではあったが、前年度比マイナス2.1ポイントであった。

２．要因分析

①英語教育ワーキング・グループを設置し、カリキュラムの検証や改訂を行い、小中連携を意識した質の高い授業が展開できる環境を提供している。

②研修会等での具体的な事例紹介をはじめ、指導訪問や授業研究会等でのICTを活用した授業の実践において、やりとりや発表する際のICTの有用性を共有することができた。

❶ 授業中に英語を使ったやり取りや発表は十分に行っているが、事前に原稿などの準備をしたうえでのやり取りや発表となっていることも多く、即興的なやり取りにはなっていない。

❷R5の英語教育実施状況調査では、「授業中、言語活動を半分以上行っている割合」は100%であり、時間は確保しているが、本当に必要感のある場面設定となっているかどうかという点に課題がある。

３．目標を達成するための施策・事業

①本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の充実

小・中連携を見通した指導ができるよう、小学校と中学校の教員合同の研修会を実施する。小グループでのデモレッスンを行い、それぞれの校種の指導内容を深く理解し、小・中９年間を一貫した教育課程の強みとよさをさらに生かす。

②カリキュラムの改訂による質の高い授業の推進

英語教育ワーキンググループによる中学校カリキュラムの改訂を行い、指導計画にICTを活用した例を示した。カリキュラムをもとにした授業を実践することで、さらに活発に生徒の言語活動が行われるようにする。

❶言語活動の場面設定の工夫・改善

R6に改訂した中学校カリキュラムの各単元は、やりとりをする際の目的・場面・状況を明確にし、即興性を育む計画となっている。このカリキュラムをもとに各教員が質の高い授業を展開できるよう、指導訪問や市教育研究会等で指導・助言を行い、生徒が自分の考えや気持ちを即興的に伝え合う活動を行うようにする。

❷エビデンスを基にした研修会の実施

生徒の学習成果を可視化・分析する効果測定を引き続き実施し、エビデンスを基にした研修会を通して、指導法の改善を推進する。さらに、個々の生徒の状況を正確に把握した上で、生徒が英語を使う必要感をもって自分の考えや気持ちを伝え合う活動を行うようにする。

様式１：高等学校

令和７年度　さいたま市　英語教育改善プラン

目標

指導と評価の一体化を軸とした豊富な言語活動を取り入れた授業による生徒の英語力の育成。
〇CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、100%で維持する。（R6: 100% ⇒ R7: 100%）
〇卒業段階でCEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、65%にする。（R6: 64.5% ⇒ R7: 65%）

☐ 言語活動　☑ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む）　☑ 教師の英語力・指導力　☐ 校種間連携　☐ALTの参画　☐ ICTの活用（AIを除く）　☐ AIの活用　☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善した。
R5:97.5%
⇒R6:100%
②授業における、生徒の英語による言語活動の割合が改善した。
R5:78.6%
⇒R6:83.3%

未だ改善が必要な点

❶スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が低下した。
R5:35.7%
⇒R6: 30%

❷英語担当教員の授業における英語使用状況が低下した。
R5:78.6%
⇒R6: 20%

２．要因分析

①グローバル・スタディを実施しているさいたま市立小・中学校から入学してくる生徒が約半数を占めており、在学中にも大学進学を視野に入れている学生が多いことから、例年高い水準を維持しているものと考えられる。
②どの学校でも、何らかの言語活動を授業で実践していることが要因と考えられる。

❶定期テストによるリスニング、リーディングの知識・技能の評価が中心になっていることが要因と考えられる。また、3年生に近づくにつれて大学入試演習等の授業が増え、パフォーマンステストを実施しなくなる傾向があると考えられる。

❷パフォーマンステストが浸透していないことから、英文和訳、文法指導などの日本語での授業が多く行われていることが要因と考えられる。また、3年生に近づくにつれて大学入試演習等の授業が増え、教員の日本語使用量が増える傾向があると考えられる。

３．目標を達成するための施策・事業

①市立高等中等教育学校英語教員による市立中学校授業参観の実施
CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を100%で維持する。市立高等・中等教育学校英語教員による市立中学校の授業参観を実施し、「12年間の学びの連続性」及び中高の連携を意識した指導改善を図る。

②単元計画の指導・助言の実施
目的、場面、相手の設定がある言語活動を取り入れて、単元計画をするよう指導・助言する。

❶指導訪問の充実化
必要に応じて指導訪問を行い、4技能のパフォーマンステストを含む単元計画や、指導と評価の一体化を軸とした授業計画などについて、指導・助言する。

❷教員の指導力向上にむけての支援
教員向けの研修案内を周知し、積極的な受講を促す。また、必要に応じて指導訪問を行い、教員のクラスルームイングリッシュや言語活動のファシリテートなどについて、指導・助言する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

さいたま市教育委員会

校種	指標内容		2023 目標値	2023 達成値	2024 目標値	2024 達成値	2025 目標値	2025 達成値	2026 目標値	2026 達成値	2027 目標値	2027 達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（%）		100	97.5	98	100	100		100		100	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（%）		82.5	52.5	54	64.5	65		68		70	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（%）		100	78.6	100	83	85		90		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（%）		100	35.7	100	30	40		45		50	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（%）	100	100	100							
		公表（%）	100	80	100							
		達成状況の把握（%）	100	100	100							
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（%）		100	97.8	100	98	100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（%）		100	78.6	100	20	50		55		60	

校種	指標内容		2023 目標値	2023 達成値	2024 目標値	2024 達成値	2025 目標値	2025 達成値	2026 目標値	2026 達成値	2027 目標値	2027 達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（%）		89	88.4	89.5	89.2	90		90		90	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（%）		100	100	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（%）		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（%）	100	100	100		100		100		100	
		公表（%）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（%）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（%）		80	56.3	80	63.9	80		80		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（%）		100	100	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023 目標値	2023 達成値	2024 目標値	2024 達成値	2025 目標値	2025 達成値	2026 目標値	2026 達成値	2027 目標値	2027 達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（%）	100	100	100		100		100		100	
		公表（%）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（%）	100	100	100		100		100		100	